

第109号

2007

Mar.

3

きりずな THE KIZUNA

いとしご増刊

<http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

社団法人日本自閉症協会
奈良県支部ニュース

発行人：社団法人日本自閉症協会
石井哲夫
編集人：社団法人日本自閉症協会
奈良支部
支部長&事務局：河村舟二
〒639-1005
大和郡山市矢田山町 84-10
購読料1部 100円
会員は会費に含まれています。

アカデミー賞候補映画「バベル」から耳の聞こえない人たちを仲間ハズレにしないでください。

2月26日奈良県支部のメーリングリストに加入の方には療育部の高橋さんから署名の依頼があった事をお知りだと思いますが、MLが出来ない方にも、署名の締め切り期日はすでに過ぎていますが、こんな問題があることをお知りおき頂きたいと思えます。高橋さんのメールの内容は…自閉症のこととは関係ないですが、聴覚障害者の方が呼びかけてらっしゃいます。ワンクリック署名がありますのでよかったですら協力してください。以下内容です<<映画『バベル』の日本語音声にも字幕を!!>>という署名活動への協力を呼び掛けています。もしよろしかったら、ご協力お願いします!***署名方法↓署名用紙こちらプリントアウトできます <http://kirogumi.net/babel/pc.html> という内容でした。この事についての内容は次のようなことです。……-呼びかけ人代表 (1)河内 健治(ろう者・東京都調布市・会社員) (2)岡本 かおり(ろう者・大阪府大阪市・会社員)さん(以下ホームページの文章から) 私たちは、耳が聞こえません。みなさんに、お願いがあり、HPを立ち上げさせていただきました。実は、今回、アカデミー賞候補として注目されているハリウッド映画について、一緒に考えていただきたいのです。私たちの中には、このところ開かれている「バベル」の試写会に実際に行った人もいます。このとき、私たちは、残念なことに気づきました。それは、この映画では、日本シーンが数多く登場しており、そこで話される「日本語音声に字幕がない」ということです。日本で公開する映画なのですから、一般の方にとっては、あたりまえのことなのかもしれませんが、でも、聞こえない私たちに

としては、大変理解しづらい映画となってしまうことがわかったのです。私たち聞こえない人の中には、洋画の大好きな人がたくさんいます。ごく当たり前のように字幕があり、そして、聞こえる友人たちとも、何の遠慮もなく一緒に出かけ、対等に楽しめる数少ない娯楽だからです。(一方、邦画やアニメには字幕のあるものが少なく(またはあっても、単館・短期間で上映館が移動してしまいうので)なかなか見るチャンスがありません。)バベルでは、女優の菊地凛子さんが“ろう者役”を演じアカデミー賞候補にもなっています。また、その他、本当に耳の聞こえない若者たちが、友人役やエキストラとして画面にたくさん登場しています。私たちにとって身近な手話シーンもたくさんあります。「バベル」は、私たち聞こえない者にとって、これまでの中でも最も見たい洋画の一つです。しかし、この映画には、いまのところ、英語・モロッコの言葉・メキシコという言葉、そして手話にまで字幕がついているのに、日本語の音声部分にだけ字幕がありません。ですから、聞こえない人たちには、ストーリーが理解できません。この問題について、ぜひ、皆さん、一緒に考えてください。今回、私たちは、もちろんギャガや映画業界を敵視するような意図で、このHPを開設したわけではありません。今回日本語に字幕のない状態で試写会が始まったことも、悪意があつてのことではないことも、理解しています。また、全てのフィルムに安易に字幕をつけることは、一般の聞こえる人の邪魔になるかもしれないこともよくわかっています。ただ、今、私たちは、この日本で最も注目すべき「バベル」という映画から、遠い存在になっていることも事実です。ぜひ、わたしたちに、聞こえる友人たちと一緒に「バベル」を見に行くチャ

ンスを、与えてほしいと思います。このことについて、(2007年)2月21日夜、『バベル』関係者の方から連絡が入り「ギャガ内部スタッフも、何とか少しでも解決策を練るため全力を尽くしています。字幕つき上映の本数等詳細はまだ決定できませんが、出来るだけ良い形で字幕をつけられるよう、努力しています。」と、お話がありました。これを受け、わたしたちも、ギャガを信じ、より多くの字幕つき上映がなされるものと心から期待しています。そして、わたしたちは、本日新たに、皆さんに呼びかけます。『バベル』日本語音声にも字幕を！！この問題は、配給元や、聞こえない人だけの努力では、解決することはできません。多くの一般の聞こえる人にも、『字幕がついても邪魔じゃないよ！』『一緒に映画を観よう』と言っていただくことこそが大切なのです。どうか、わたしたちの願いを、あなたも一緒に考えてください。もし可能なら、ゴールデンウィークには、日本語音声部分にも字幕のついた「バベル」が、全国にできるだけ多く配給されるよう、わたしたちは祈ります。DVD版では、ぜひとも、全編字幕付の作品を見られるよう、準備が進められると信じています。全国のみなさん、よろしくお祈りします。(2007年2月22日)……【以上HPより抜粋】聴覚障害者のみならず我々自閉症児者

に対しても、指摘が無くても自然と障害者の存在に配慮し、社会的弱者や障害者には優しい成熟した日本の社会を早く構築してもらいたいと思いました。(河村)



講演

演会のお知らせ

特別講演会

「TEACCHの街アルバマーレ」(米国ノースカロライナ州)

一街全体で取り組む自閉症児者の地域生活支援の実際—学校教育・職業訓練・作業所・グループホームなど

この度ノースカロライナのアルバマーレ市から、GHA(Group Home for Autistic)のディレクターであるドーン・アレン(Dawn Allen)氏とスタッフであるジャネット・バンク(Janet Banks)氏をお招きし、TEACCHプログラムを軸にして発展してきたアルバマーレ市の街全体で取り組む自閉症支援についてお話いただきます。

30年ほど前に、当初組織の名称が示すように、自閉症の子どもを育てるのに苦悩する家族のために、自閉症児のグループホームをつくりました。以来、地域社会の人々の希望に添うように、成人のグループホーム、作業所、職業訓練施設、居住と職業の機能を併せ持った農園(Carolina Farm)等を順次設立し、遂に数年前には、公立学校の自閉症教室の運営まで委託を受けるまでに発展してきました。まさにライフステージに応じた総合的・包括的プログラムを、アルバマーレの街に実現したのです。当初からその発展を支えたのは、TEACCHの理念と実践ですが、近年はスタッフの養成を直接大学のTEACCH部に依存することはなくなり、

GHAが自ら必要な職員を養成し、訓練することができるようになり、文字通りTEACCHプログラムの実践を街ぐるみで可能にしたのです。

川崎医療福祉大学のご尽力と佐々木正美教授及び小林信篤助教授のご協力をいただき、ドーン・アレン(Dawn Allen)氏とスタッフであるジャネット・バンク(Janet Banks)氏を横浜にお招きすることになりました。このような実践例について紹介いただくことは大変貴重な機会であり、今後の自閉症支援およびTEACCHプログラムの普及にとっても有益であると考えます。

福祉、教育、医療、企業、行政をはじめ広範な関係領域の皆様のご参加をお待ちしております。

特別講演会

「TEACCHの街アルバマーレ」(米国ノースカロライナ州)
一街全体で取り組む自閉症児者の地域生活支援の実際—
学校教育・職業訓練・作業所・グループホームなど

日時：平成19年5月1日(火)

午前9時30分～午後4時40分

会場：横浜市開港記念会館 講堂

参加費：3,000円

定員：480人

申し込み方法：郵便振替口座へ参加費をお振込下さい。振り込み手数料は参加者ご自身がお負担下さい。

領収書が入場券となります。

一旦お振り込まれた参加費はご返却いたしません。

また、定員に達し次第、当会HP及び事務局留守電にてご案内いたします。

「Web やまびこ」<http://www5d.biglobe.ne.jp/~yamabiko/>
事務局 045 (663) 0019

申し込み口座：

00270-0-114752 野尻美夏（郵便振替口座です）

お問い合わせ：事務局 045 (663) 0019

★スケジュール

総合司会：小林信篤氏（川崎医療福祉大学助教授）

9：30～

10：30 GHAとの出会い

佐々木正美氏

（川崎医療福祉大学教授）

10：40～

12：00

GHAの現状と歴史

— TEACCHとの関連の中で—ドーン・アレイ氏

（GHAディレクター）

*通訳：重松加代子

13：00～

16：00 アルバマーレにおけるGHAの取り組み

(1) 暮らし

(2) 学校教育

(3) 就労支援 (4) その他 ドーン・アレイ氏

ジャネット・バンク氏

*通訳：重松加代子

16：10～

16：40 質疑応答

主催：横浜市自閉症児・者親の会

後援：横浜市健康福祉局 横浜市教育委員会 横浜市リハ

ビリテーション事業団

横浜市社会福祉協議会 朝日新聞厚生事業団（予定）

協賛：社会福祉法人横浜やまびこの里



NHKハート・フォーラム

「発達障害を理解し、早期発見と適切な支援につなげる」

発達障害の早期発見や早期療育を目的としたフォーラムを

開催 NHK 厚生文化事業団、「NHKハート・フォーラム～発達

障害を理解し、早期発見と適切な支援につなげる～」

<http://www.fukushi.com/news/2007/02/070219-b.html>

社会福祉法人 NHK 厚生文化事業団は、日本自閉症協会との共催で、自閉症などの発達障害についてのフォーラム「NHKハート・フォーラム～発達障害を理解し、早期発見と適切な支援につなげる～」を、2007年3月25日（日）に、府中グリーンプラザ（東京都府中市府中町 1-1-1）にて開催する。

フォーラムは、乳幼児期の子どもと接する人々に、発達障害の特徴や対応方法などを知ってもらい、早期発見や早期療育に役立ててもらおう目的で開催する。発達障害は、早い時期から適切な指導を受けることにより、子どもの症状を緩和したり、二次障害を予防することが可能。また、わが子の様子に不安や悩みを抱える母親への育児支援という観点からも、早い段階からの支援が望まれ、そのためにも早い時期で子どもたちの特徴に気付くことが大切だといわれている。

第1部は、相沢幸子氏（NPO 法人銀杏の会御茶ノ水発達センター）を講師に迎え、講演「発達障害って、なあに？

—より良い理解のために—」を、第2部は、シンポジウム「発達障害のある子に気付くこと、支援すること」を行う。入場は無料、定員は450名で、事前申し込みが必要となっている。

▼申し込みサイト：NHK 厚生文化事業団

フォーラム「発達障害の早期発見と早期療育」参加者募集

http://www.npwo.or.jp/info/2007/post_9.html

た だいまリソースブック編集中心

社団法人日本自閉症協会奈良県支部では、平成18年度独立行政法人福祉医療機構助成金による「発達障害者の就労・自立支援のための人材養成事業」による事業として

1. 発達障害理解講座
2. ペアレントメンターの養成、
3. 発達障害者支援のためのリソースブック作成の3つの事業を行ってきました。

現在、事務局の上島さんを中心にリソースブックの編集の最終段階に入っています。すばらしいリソースブックが全国では刊行されていますが、奈良県の実態とは合わないことがありました。そこで、奈良で実際に役立つ冊子を自分たちでつくろうと云うことでこの事業に取り組みました。しかし、冊子

の制作は思ったより手間暇のかかる作業であることがわかりました。今回のリソースブック作りは、なにぶん奈良県支部では初めてのとりくみであり、完全なものではないかも知れませんが、なんといっても、奈良県の現状に立脚したものとなっています。今後さらに使いやすいように追加や改良を加え、進化させていきたいと考えています。このリソースブックの中には、奈良県の正確な実態を表すアンケートの集計があります。皆様のご協力により思っていた以上にアンケートの回答が得られ精度の高いものとなっています。以下に完成予定の目次の概要とアンケートの単純集計結果を示します。多少の変更はあるかも知れませんが、いち早くお知らせします。リソースブックが完成しましたらまたお知らせします。(河村)

リソースブックの内容：**奈良県で暮らす発達障害児者ために・・・「豊かに くらしたい」**

はじめに 河村舟二

目次

発達障害について 飯田順三

発達障害についての相談は? 堀智晴

(フローチャート)

診断・療育について 金廣先生

*市町村保健センター・県保険者連絡先

*医療機関

療育施設の紹介 仔鹿園

療育先の一覧

診断を受けてから就学まで 丸橋先生

学校教育について

特別支援教育

「今日から使えるなら特別支援教育ガイド」河村舟二

・我が子の小学校生活 通常学級で 小学生女子保護者

・小学校障害児クラスで 小学生男児保護者

・養護学校 高等部男児保護者

・高等部と進路指導

・高等養護学校 HPより

・盲ろう養護学校と教育相談

・市町村教育委員会一覧

・インクルーシブ教育へ 堀智晴

障害のある子どもとその家族のために 内山尚子

地域でよりよい生活をできるように願って SKIP 勉強会

地域生活で大切な事 堀 智晴

主な福祉施設と内容について 渡辺哲久

授産施設(通所) ひまわりの家の1日 渡辺哲久

発達障害の人の就労支援について 小島秀一

主な就労支援機関一覧 小島秀一

就労・自立した息子を見ていて感じた事

幼児期以降に診断を受けた方へ 姜 昌勲

高機能自閉症を丸ごと受け入れ 一人の人間として生きる

馬場 功

奈良県発達障害支援センター でいあ

その他の相談先

制度

障害者自立支援法による福祉サービス 渡辺哲久氏

療育手帳

年金・手当

税の軽減・免除

成年後見制度

付録

・アンケート

・実態調査(聞き取り) 堀 智晴

・親の会の紹介:奈良LD親の会・ポップコーン・アスカ・

育成会・自閉症協会

発達障害関係の書籍

*発達障害者支援法

*奈良県障害者福祉計画



奈良県内のボランティア団体に対する社会福祉助成をしておられる財団法人森田記念福祉財団から下記のように日本自閉症協会奈良県支部が助成を受けることになりました。…

2007年3月9日 財団法人森田記念福祉財団理事長 森田和子:(財)森田記念福祉財団ボランティア表彰式と助成金贈呈式のお知らせ

時下 皆様には益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、今般当財団の事業の一つでありますボランティア活動を通じて社会福祉に貢献されております皆様への表彰及び助成をさせていただくに当たり去る3月6日3月6日 奈良県社会福祉総合センターにおいて開催されました、選考委員会で厳正な審査の結果、貴グループを表彰(助成)させていただくことになりました。尚 下記により表彰と助成金贈呈並びに懇親会を開催させていただきます。是非共ご出席くださいます様、ご案内かたがたお願い申し上げます。 記 日時:2007年4月5日(木)10時~14時 場所:奈良県文化会館2階集會室A・B 以下省略…なおこの助成金でかねてより療育部さんが希望されていたプロジェクターとスクリーンを購入手配です。講演会や部会でパワーポイントやビデオ

鑑賞など気兼ねなく利用できるようになります。



自閉症の手引きの改訂版

日本自閉症協会では平成18年度にボーイング社の寄付助成を受けて、自閉症の手引きの改訂版を現在出版部で作成中だそうです。新しい手引きが出来上がるのが、4月の中旬頃になる予定で、本部からは、全国各地の下記のところへ、手引きの無料配布が行われます(各1冊ずつ)・地方公共団体担当部局・都道府県支部・市町村教育委員会・福祉事務所・児童相談所・保健所・発達障害者支援センター・理事・研究部会員です。ボーイング社からの助成で行っているこの事業は、20,000部の無料配布を事業の一環で行うことになっております。その関係で、4月中旬頃に各支部事務局宛に300部自閉症の手引きが届く予定です。(無料配布分のため、販売はご遠慮くださいとのこと。)

の運営目標としています。親御さんや教師・保育士・療育センター職員などの専門職の先生方、発達障害の方が訪れる可能性がある医療現場の皆さんに、正確な知識をもつていただくことは、発達障害の子どもたちとご家族のQOLを向上させる上で極めて重要なことだと、わたしたちは考えています。こうした趣旨のもと、よこはま発達クリニックでは定期講演会も開催しています。

内山 登紀夫(うちやま ときお)先生の紹介
1956年三重県に生まれる。
順天堂大学医学部卒業 精神科医師。
専門は児童精神医学順天堂越谷精神医学研究所附属病院、東京都立梅ヶ丘病院を経て、現在よこはま発達クリニック院長及び大妻女子大学人間関係学部教授 1994年 朝日新聞厚生文化事業団の奨学金を得て米国ノース・カロライナ大学 TEACCH 部にて研修
1997年8月から一年間、国際ロータリー財団田中徳兵衛冠名奨学金にて、The Centre for Social Communication Disorders(ロンドン)にてローナ・ウィング、ジュディス・グールドの指導のもと、アスペルガー

社団法人日本自閉症協会奈良県支部

第10回定期総会・記念講演会

自閉症の支援

～知的に遅れのある人から 高機能まで～

講師 内山登紀夫先生

(大妻女子大学教授 よこはま発達クリニック院長)

日時 平成19年 5月26日(土)

講演 13:30~16:30 (受付 13:00

~) 場所 やまと郡山城ホール 小ホール

(奈良県大和郡山市北郡山町211番地の3

TEL0743-54-8000 E-mail: ykjh@ykjohall.jp)

定員300人 参加費 500円(資料代のみ)

申し込み 不要

問い合わせ 上島 FAX0744-33-4755 e-mail

m-ueshima@k2.dion.ne.jp

よこはま発達クリニック

仲町台発達障害診療所を前身として2000年2月に開設された発達障害の専門クリニックです。

わたしたちは発達障害の子どもと大人・そのご家族が、より充実した穏やかな日々を送れることをクリニック

症候群を学ぶ

好きな食べ物: オムレツ、牛丼、柿の種、アプリコットパン、カマスの干物、激辛系(モチのエキストラホットのカレー、トムヤンクン、ギドギド)

嫌いな食べ物: 学校給食(小学校6年通して全部食べたことはほとんど無し)、昔の学校給食のミルク、ブロッコリー、トマト、茄子、キャベツレタス、キュウリ、ニンジン、野菜系ほぼ全部、健康的な食べ物ほぼ全部

2007年3月11日 近畿ブロック会議から
中央情勢報告～障害者自立支援法と発達障害者支援法～

障害者自立支援法

■障害者自立支援法の円滑な運営のための改善策…

- 1, 200億円
- 1) 利用者負担額……240億円
- 2) 事業者に対する激変緩和措置……300億円
- 3) 新法への移行等のための緊急的な経過措置…660億円

⇒利用料1割負担の上限額 1 / 2 → 1 / 4

資産のある人の要件 単身者 350万円→600万円
家族という場合1,000万円まで
プラス入所施設への改善策

■960億円は、「障害者自立支援対策臨時特例交付金」
として都道府県に交付される。都道府県→市町村へ助成
(実施計画の作成)

⇒3年を限度とする時限制度でしかない。

⇒3年後の介護保険との合体時期を前提にした「改
善案」でしかない。

■今後について

- ①応益負担の中止
- ②地域生活支援事業の更なる財源措置
- ③社会基盤の緊急整備
- ④すべての障害者を法制度の対象に
- ⑤年金・就労などの所得保障の確立

■障害者権利条約の国内批准に向けて → 国内法の整
備を！

発達障害者支援法

■発達障害の支援施策の推進に関するアンケート調査の
実施

■発達障害の支援を考える議員連盟との協働、

■法案の見直しに向けての活動

本年度のNHKハートフフォーラム案の速報(兵庫
県支部)3/11近畿ブロック会議より

テーマ：発達障害児・者の支援の原点を考えるー支援現
場からの提言ー

趣旨：今日 発達障害児・者への支援、援助のあり方につ
いてその障害特性をも含め百花繚乱の感がある。子
を持つ親、子供たちを支援下さる現場の方々には何を根拠
に療育、教育援助が必要なのかの原点を考える機会とし
たい。

日時：平成19年6月17日(日)10時から16時 受
け付け9時30分

場所：神戸市垂水勤労市民センター、レバンテホール神
戸市垂水区日向1丁目5番1号 TEL078-708-8901

基調講演 演演「発達障害児・者の支援の原点を考えるー
支援現場からの提言ー」10:00AM

講師：あさけ学園施設長 奥野 宏二 氏

シンポジウム 13:00PM

ー各発達期からの提言ー

コーディネーター あかりの家施設長 三原 憲二

氏・児島 文子 氏(幼児期)・嶋崎まゆみ 氏(学齢期)・

笹森 理絵 氏(青年・成人期)

申し込み 〒671-1203 兵庫県姫路市勝原区丁518-5

岩本 四十二 宛

問い合わせ：社団法人日本自閉症協会兵庫県支部

TEL& FAX079-274-0322

E-mailは田中さんを利用します

講師紹介

基調講演

演題「発達障害児、者の支援の原点を考える」

ー支援現場からの提言ー

講師 奥野 宏二 氏 あさけ学園施設長

紹介：同志社大学文学部社会学科(社会福祉専攻)を卒
業。三重県立高茶屋病院児童病棟、兵庫県立清水が丘学
園(情緒障害児短期治療施設)兵庫県リハビリテーショ
ンセンターを経てあさけ学園施設長に至るまで情緒障害
児・発達障害児、者の療育に携わってこられた。

略歴：昭和22年1月3日 生まれ・昭和45年 三重
県立高茶屋病院あすなろ学園(児童精神科病棟)勤務・
昭和50年兵庫県立清水が丘学園(情緒障害児短期治療
施設)勤務・昭和58年兵庫県リハビリテーションセン
ター勤務・昭和59年社会福祉法人檜の里 あさけ学園
(自閉症者施設)勤務・昭和60年社会福祉法人檜の里

あさけ学園 施設長就任現在に至る

著書等： 自閉症と発達障害研究の進歩1997,200(共

著)・自閉症の人たちのらいふステージ(共著)・自閉症
一助児期から成人期まで(共著)

施設長 奥野 宏二 様

コーディネーター

三原 憲二 氏 知的障害視野更生施設

あかりの家 施設長

略歴：1974年広島県に生まれる・1971年広島大学政
経学部経済学料 卒業・1974秩父学園附属保護指導員
養成所 修了・1974兵庫県社会福祉事業団 就職 知
的障害児施設五色精光園児童寮、知的障害者更生施設三
木精愛園、情緒障害児短期治療施設清水が丘学園にて、
児童指導員又は生活指導員として勤務・1994年 社会
福祉法人 あかりの家就職現在に至る。・2003年ひよ
うご・発達障害者支援センターセンター長(兼務)(青年、
成人期担当)

シンポジスト

嶋崎 まゆみ 氏 (学齢期担当)

略歴

：昭和59年 信州大学教育学部 卒業・昭和61年関
西学院大学大学院文学研究科を経て数々の大学講師を歴
任・平成15年 兵庫教育大学 講師・平成17年4月

兵庫教育大学大学院学校教育研究科講師*専攻は行動分析学、臨床心理学、行動分析学を発達臨床や教育の場に応用する方法について研究及び実践中。

著書：発達障害児の衝動性とセルフコントロール

シンポジスト

笹森 理絵 氏 (成人期担当)

紹介： 32歳の時にLD, ADHD, 自閉傾向と診断 現在兵庫県LD親の会「たっの子」教育代表。当事者と親、社会をつなぐために活動中。昨年NHK 障害福祉賞優秀賞を受賞し、NHK教育テレビ「福祉ネットワーク」「ハートをつなごう」に出演。障害の息子を持つ母親でもある。

シンポジスト

児島 文子 氏 (幼児期担当)

略歴：昭和62年3月 日本福祉大学 社会福祉学科 卒業・4月 知的障害児通園施設「荒川学園」保母として勤務・肢体不自由児通園施設「白鳥園」へ異動・平成6年4月 知的障害児通園施設 つくし児童園 園長・やすらぎルーム室長現在に至る。(夫一人 こども4人 現在 夫と次男とネコと同居)

日本自閉症協会第20回全国大会 (概要の中間報告)
実行委員会設置支部：熊本県支部

開催場所：熊本県熊本市

会場：熊本市市民会館

日時：平成20年7月19日(土)午後、
20日(日)終日

大会テーマ：啓発と支援

サブテーマ：日本は一つ、自閉症は一つ

内容：20周年の記念式典：？

基調講演：障害や慢性疾患の子供達の「きょうだい」

ドナルド・マイヤー氏

(米国知的障害者協会きょうだい支援プロジェクトディレクター)

特別講演：「きょうだい」本人

分科会1：自閉症と啓発

分科会2：支援の支援

分科会3：自閉症と療育

分科会4：当事者の思い

研修会1：幼児期の気付きと家族への告知

研修会2：学校の先生のための発達障害講座

イベント

実行委員会 実行委員長 岡田稔久

事務局行事お知らせ

○近畿ブロック会議 3月11日 10:00 エル大阪

○防災・減災フォーラム：災害時に要援護者を守るために～知的障害(児)者の立場から～

平成19年3月11日(日)13時～16時 榎原市公会堂：講演とシンポジウム

○漫画文庫「この星のぬくもり 自閉症児の見つめる世界」見本1冊事務局に届いています。株式会社ぶんか社 第3編集部今晴美様よりTEL 03-3222-5125

○わかる・できる！親と教師のための自閉症の子どもの自立課題、第1巻自立課題の選び方。第2巻自立課題の作り方。第3巻自立課題のできあがり各定価4,800円・自閉症の子どもたちの明日のために！！DVD：TEACCHプログラム「自閉症の明日のために～TEACCHのねらいと考え方」「親のためのTEACCHプログラム」「教師のためのTEACCHプログラム」「青年期・成人期のTEACCHプログラム」各巻定価3,000円。朝日ガイドブック「自閉症のひとたちへの援助システム TEACCHを日本でいかに」は定価500円。自閉症の人たちを支援するということ - TEACCHプログラム新世紀へ - 定価800円。

以上申し込み・問い合わせは電話FAX・電子メールで朝

日新聞厚生文化事業団 朝日福祉ガイドブック・DVD 係宛に〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2 電話03-5540-7446 fax03-5565-1643 メール mai1@asahi-welfare.or.jp

○DVD[[親ときょうしのための「自閉症の子どもの自立課題」]全3巻各巻4,800円を3月末までキャンペーン価格13,000円問い合わせ：朝日新聞厚生文化事業団 担当：福田年之さん tel03-5540-7446 FAX03-5565-1643 メール fukuda-t2@asahi.com

○奈良県発達障害支援センターでいあー平成18年度運営権当委員会・連絡協議会 合同開催：平成19年3月15日(木)10:00 奈良市男女共同参画センターあすなら

○独立行政法人福祉医療機構事業完了報告平成19年4月10日(必着)

○JDD 奈良会議 4月14日青丹学園

○つながり祭 5月13日

○第10回日本自閉症協会奈良県支部総会 5月26日

○日本自閉症協会総会 7月8日